

平成二十七年 学力検査問題解説（国語）

〈出題の方針〉

- 1 国語の基礎的・基本的な内容について、できるだけ広範囲にわたって出題し、国語を適切に表現し、正確に理解する力をみるように努めた。
- 2 文学的な文章と説明的な文章を理解する力をみるように努めた。また、平易な古典を読む基本的な力をみるように努めた。
- 3 作文と言語事項についての問題を出題し、文章表現力や基礎的な言語能力をみるように努めた。

〈出題形式〉

◇ 大問1～大問5の5問構成（ ） 内は配点	
・ 大問1：文学的な文章	(25点)
・ 大問2：漢字・言語事項	(22点)
・ 大問3：説明的な文章	(25点)
・ 大問4：古典	(12点)
・ 大問5：作文	(16点)
合計	100点

大問1

【出題のねらい】

文学的な文章を理解する力をみようとしたものです。

資料文には、自分に自信の持てなかった歩あゆむが将棋を通して成長していく過程で、焦らずゆっくり実力をつけて欲しいと考える父と、歩あゆむの成長を喜び全面的に支えようとする祖父との間で葛藤する心情が描かれています。出典は、小山田桐子おやまだきりこ著『将棋ボーイズ』です。

問1 ① 歩は居心地の悪さに思わず身じろぎした。とありますが、これは歩あゆむのどのような様子を

表していますか。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。

(4点)

- ア 何事も自分できちんと決められず、優柔不断な自分に引け目を感じている様子。
イ 根気強く部活の質問を投げかけてくる祖父に対して、いらだちを隠せない様子。
ウ まだ決めていないのに、A級に出ると祖父が早合点したので慌てている様子。
エ 祖父が大きさに自分を褒めるのでいたたまれず、じっとしてられない様子。

【正答】 エ

【解説】

歩が「居心地が悪い」と感じた理由を読み取るとともに、「身じろぎする」という表現の本文中における意味として適切な選択肢を選びます。ア～エの選択肢は、本文の内容を含んでいます。その全部または一部が本文の内容にふさわしくないもの、本文の言い換えとして適切でないものがあります。それぞれの選択肢をみてみましょう。

まずアですが、歩が「夕食のリクエスト」ができない自分を笑う描写はありますが、「何事も自分で決められ」ないとは表現されていません。次にイですが、祖父が根気強く質問する描写はありますが、歩がそれに対して、いら立ちを感じたとは表現されていません。次にウですが、「身じろぎする」とは、慌てている様子を示す表現ではありません。最後にエですが、歩が「居心地が悪い」と感じたのは、意気消沈している歩のことを祖父が「いつも以上に歩を褒めちぎ」ったためです。また「身じろぎする」は「少し体を動かすこと」の意味であり、じっとしてられない歩の様子を表現しています。したがって、正答はエになります。

問2 父の中の自分の評価 ②とありますが、父は歩のことをどのように考えていますか。その説明として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(4点)

- ア 自分の実力に見合った場所で成績を残すことが、歩には大事であると考えている。
- イ 他人の言葉を都合よく解釈し実力以上のことをしても、歩が恥をかくだけだと考えている。
- ウ ときには強いライバルたちに囲まれて頑張ることも、歩の成長には必要だと考えている。
- エ 早く結果を出そうとすると、歩はそれがプレッシャーになって失敗すると考えている。

【正答】 ウ

【解説】

登場人物たちの会話や描写を正確に読み取ることで父の歩に対する見方や考え方を理解し、その説明として適切でない選択肢を選びます。

まずアですが、父の「自分の実力に見合ってるかっていうのが大事なんだろう。」「無理して実力以上のところに出たって意味はないだろ。そこで成績を残せないと。」という会話から、適切な内容です。次にイですが、父は「それ(＝先生の言ったこと)を拡大解釈して、舞い上がって、恥をかくのは歩なんですよ。」と述べており、適切な内容です。次にウですが、「強いライバルがたくさんいる方が、きつと歩も頑張れるだろうし。」という母の意見に対し、父は「歩はそういうタイプじゃないだろう……」と否定しており、適切でない内容です。最後にエですが、父は歩について「早くやらなきゃいけないとプレッシャーを感じるたびに、いつも失敗してきた」と述べており、適切な内容です。したがって、正答はウになります。

問3 ③ そんな小さな勝利も長くはもたなかった。 ②とありますが、このときの歩の心情の変化を次のようにまとめました。空欄にあてはまる内容を、四十字以上、五十字以内で書きなさい。(6点)

		A級に出ることについて、父が一応は肯定的な言葉を口にしたことで勝った気持ちになっていたのが、
40	50	

【正答】

(例) 大事に一人で考えて決められず、A級に出ることを武器のように振りかざしたことの後悔に変わった(四十五字)

【解説】

本文傍線部は、歩の心情が変化していくことを示しています。このあとの心情の表現を的確に読み取り、指示された文脈や字数で適切に表現します。心情を表すキーワードは「後悔」で、その具体的な内容は次の二つです。

- ① A級に出ると決めたことよりもそれを武器であるかのように振りかざしたことに後悔があった。
 - ② もっと大事に、一人できちんと考えて、きちんと決めなかったのに。
- これらの読み取りをもとに、指示された文脈と字数内でまとめます。

問4 ④ 自分は金だと証明したくないか? とありますが、この言葉を歩はどのように感じているかを次のようにまとめました。空欄にあてはまる内容を、二十字以上、三十文字以内で書きなさい。

(6点)

		祖父は、歩には将棋の実力が十分にあると励ましているのだが、歩は、
30	20	

と感じている。

【正答】

(例) 今の自分は祖父の理想の姿から遠く、祖父の期待を苦しい(二十六字)

【解説】

本文傍線部は、歩の祖父が歩の実力を認めていることを伝える励まし表現ですが、自分が自信が持てない歩は、その励ましを「苦しい」と感じています。その具体的な内容を、このあとの歩の発言から読み取ります。ポイントは次の二点です。

- ① 「金であること(≡自分の実力の証明)」を期待されるのも、苦しい(しんどい)。
 - ② 祖父の期待が「理想の自分」に対するものに思え、かえって「今の自分」を否定されているように思われて苦しい。
- これらの読み取りをもとに、指示された文脈と字数でまとめます。

問5 ⑤ おじいちゃんが転んだのは絶対自分のせいだと思った。 とありますが、このときの歩の心情を説明したものとして最も適切なものを、次のア〜エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(5点)

- ア 昨日のことを謝ろうと決めていたが、祖父の視線を感じて言い出せず、祖父と和解できなかったことが、転倒の原因になったと考えている。
- イ 昨日のことを気にしながらも、祖父と向き合うことを避け、祖父を落胆させたままにしたことが、転倒の原因になったと考えている。
- ウ 明日話そうと約束をしていたにもかかわらず、それを忘れて対局に熱中してしまい、祖父を失望させたことが、転倒の原因になったと考えている。

エ パートで不在がちな母からの着信に気づかず、祖父を家に一人きりにしてしまったことが、転倒の原因になったと考えている。

【正答】 イ

【解説】

祖父の転倒の原因を「絶対自分のせいだ」と考える歩の心情を、本文全体を通しての歩と祖父のやりとりや歩の祖父に対する心情表現に着目して読み取り、その説明として適切な選択肢を選びます。

まずアですが、歩が「昨日のことを謝ろうと決めていた」ことは文中に表現されていません。また祖父とはいさかいをしたわけではないので、「和解」という表現は適切ではありません。次にイですが、「しゃがれた、力のない声だった」という表現から祖父の落胆が読み取れます。「祖父の視線をく気づかないふりをした」、「おじいちゃんと同じく向き合ってく気が重かった」などの描写から、祖父のことを気にしながらも、向き合うことをおそれ、避けてしまったことが読み取れます。次にウですが、祖父の言葉に「明日にでもゆっくり話そう。」とありますが、それに対して歩は明確な約束をしていません。また将棋部でも、「勝負に集中できるはずもなく」とあり、祖父との「約束」を「熱中して忘れた」とはいえませんが、最後にエですが、母が歩に電話をかけたのは、母が帰宅して祖父の転倒に気がついたあとで、歩が電話に出なかったことが転倒の原因ではありません。また歩が家に電話をしたとき、「少なくともおじいちゃんがいるはず」と考えており、祖父が一人で家にいることは特別な状態ではないことがわかります。したがって、正答はイになります。

大問2

【出題のねらい】

漢字の読み書きを含む、基礎的・基本的な言語能力をみようとしたものです。

問1 次の――部の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に改めなさい。(各2点)

- (1) 稚拙な字を書く。
- (2) 峡谷を風が吹きぬける。
- (3) 運命に身を委ねる。
- (4) 電車がケイテキを鳴らす。
- (5) 夕日が空を赤くソめる。

【正答】と【解説】

- (1) 「ちせつ」と読みます。「稚」という字は、「稚魚」「幼稚」などの熟語に用いられます。「拙」という字は、音読みで「せつ」、訓読みで「つたな(い)」と読み、「拙速」「拙宅」などの熟語をつくります。「稚拙」は、未熟でつたないことを表す熟語です。
- (2) 「きようこく」と読みます。「谷」という字は、小学校二年生で訓読みの「たに」という読みを学習しますが、中学校では音読みの「こく」という読みを学習します。
- (3) 「ゆだ(ねる)」と読みます。音読みでは「委員」「委任」などの熟語に用いられます。
- (4) 「警笛」と書きます。「注意をうながすために鳴らす笛」という意味の言葉です。「笛」の音読みは「てき」です。
- (5) 「染」と書きます。「せん」と音読みすると、「染料」「染色」などの熟語をつくります。また「染」の部首は、「きへん(木偏)」になります。漢字の習得においては、音訓両方について、意味や用法を確認することが大切です。また、複数の読み方がある漢字の熟語の意味を調べると、語句の理解が深まります。さらに、漢和辞典等を使い、漢字が持つ意味や成り立ちにも興味を持って学習するとよいでしょう。日ごろから漢字の筆順や点画などに注意しながら、文字を丁寧に書く習慣を身につけるとともに、漢字を正しく用いることが大切です。

問2 次の――線部の述語に対する主語を、一文節で書き抜きなさい。(3点)

この町には、私が友人と過ごした頃の思い出がたくさんあります。

【正答】 思い出が

【解説】

文の組み立ての関係(係り受け)についての理解を問う問題です。述語の「あります」について、「何(誰)がそうするのか」「何(誰)がそうなのか」を考えます。ここでは「ある」という動詞の一文節の主語は「思い出が」となります。文によっては、主語は「が」(格助詞)で示されるとは限りません。その場合は、まず述語を探してから主語を確認しましょう。

問3 次は、夏目漱石著『坊っちゃん』の一部です。この文章の中に、用言（活用のある自立語）はいくつありますか。あとのア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。（3点）

そんなものは欲しくないと、いつでも清に答えた。すると、あなたは欲が少なくなつて、心がきれいだと言つて、またほめた。

ア 四つ イ 五つ ウ 六つ エ 七つ

【正答】 エ

【解説】

用言の理解を問う問題です。用言とは、口語文法の品詞分類のうち、活用のある自立語（動詞、形容詞、形容動詞）をさします。本文中で具体的には、

- ① 欲しく（形容詞「欲しい」の連用形） ② ない（形容詞「ない」の終止形）
- ③ 答え（動詞「答える」の連用形） ④ 少なく（形容詞「少ない」の連用形）
- ⑤ きれいだ（形容動詞「きれいだ」の終止形） ⑥ 言つ（動詞「言う」の連用形）
- ⑦ ほめ（動詞「ほめる」の連用形）

の七つになります。したがって、正答はエになります。

この中で、②の「ない」は、「欲しく」について補助的な働きをする補助形容詞です。「ない」は、否定（打ち消し）の意味を持つ助動詞にもありますが、次の方法で見分けることができます。

・「ない」を「ぬ」に置き換えられる。

(例) このところ、雨が降らない。↓助動詞

・「ない」を「ぬ」に置き換えられない。

(例) 外はまだ暗くない。↓形容詞

他にも、次の方法で見分けることができます。

・「ない」を「ありません」に置き換えられなければ、助動詞。

・「ない」の直前に「は」「も」などを挟めれば、補助形容詞。

・「なくて」という言い方だけでなく、「ないで」という言い方もできれば、助動詞。

こうした品詞や意味・用法が異なる語の見分け方について、理解を深めましょう。

問4 次の会話の空欄にあてはまる最も適切な敬語の表現を、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。（3点）

先生「ここは美術部の部室ですね。皆さんの作品を見せてもらえますか。」
生徒「ありがとうございます。どうぞ、ゆつくりと（ ）ください。」

ア お見せになって イ ご覧になって ウ 拝見なさって エ お目にかけて

【正答】 イ

【解説】

会話の中で敬語を適切に使うことができるかを問う問題です。会話の内容から、敬意の対象であ

る「先生」の「見る」（自動詞）という動作を適切に敬語にできるかがポイントになります。

話題の中の人物の動作・行為をする人に対して敬意を表す敬語を尊敬語といます。ここでは「見る」という言葉の尊敬語として適切な表現を選択肢の中から選びます。

まずアですが、「お見せになる」は「見せる」（他動詞）の尊敬表現であり、適切ではありません。次のイですが、「ご覧になる」は「見る」の尊敬表現であり、適切な表現です。次にウですが、「拝見なさる」は「拝見（する）」という謙譲語に「なさる」という尊敬語が続いたもので、適切ではありません。最後にエですが、「お目にかける」は「見せる」の謙譲表現であり、適切ではありません。したがって、正答はイになります。

問5 俳句と俳句に表現されている季節の組み合わせとして適切でないものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。（3点）

- | | | | |
|---|-----------------|--------|---|
| ア | 荒海や佐渡によこたふ天河 | (松尾芭蕉) | 春 |
| イ | 炎天の遠き帆やわがこころの帆 | (山口誓子) | 夏 |
| ウ | 名月をとつてくれろと泣く子かな | (小林一茶) | 秋 |
| エ | いくたびも雪の深さを尋ねけり | (正岡子規) | 冬 |

【正答】 ア

【解説】

俳句に表現された季節についての理解を問う問題です。中学校では、俳句には必ず季節を表す「季語」があることを学習しています。この季語を探すが、俳句の季節を考える場合に重要です。それぞれの俳句の季語を確認してみましょう。

アは、松尾芭蕉の『おくのほそ道』にある句です。季語は「天河」で、季節は「秋」です。

イは、山口誓子の『遠星』にある句です。季語は「炎天」で、季節は「夏」です。

ウは、小林一茶の『おらが春』にある句です。季語は「名月」で、季節は「秋」です。

エは、正岡子規の『寒山落木』にある句です。季語は「雪」で、季節は「冬」です。

したがって、正答はアになります。

【正答】 (例) 特定の文化の中で時間をかけて形成されるものであり、別の時空に移動されても新たな別の文化文脈にはめ込まれる(五十二字)

【解説】

音楽が、必ず歴史／文化の文脈の中で鳴り響くという筆者の主張を、本文中で述べられている筆者の音楽に対する考えをまとめることで理解しようとする問題です。傍線部の前から、筆者が音楽について述べた部分に着目します。

① 「音楽とは、特定の文化の中で時間をかけて形成されてきたもの、そこでしか生まれえないもの」である。

② 「たとえ本来の文脈から切断されて別の時空に移動されたとしても、またしても音楽はそこで新たな別の文化文脈にはめ込まれる」

これらの筆者の音楽に対する考え方を、指示された文脈と字数で説明します。

問3 ③ 今の時代にあつて何より大切なのは、自分が一体どの歴史／文化の文脈に接続しながら聴いているのかをはっきり自覚すること、そして絶えずそれとは別の文脈で聴く可能性を意識して

みることだと、私は考えている。とありますが、筆者がこのように考えたのは、どのような現代の音楽の事情があるからですか。それを説明した一文として最も適切なものを本文中から探し、そのはじめの五字を書き抜きなさい。(4点)

【正答】 それは今日

【解説】

音楽を聴くとき、自分が接続する歴史／文化の文脈とそれとは別の文脈で聴く可能性を意識することが大切である、という筆者の意見が、どのような事実に基づいているかを文中から読み取ります。筆者が、「現代の音楽の事情」について述べた一文を文中から探します。

傍線部の段落の前に、次の一文があります。

「確かに現代の音楽状況をひどく複雑なものにしている、特殊な事情というものもある。」

この現代の音楽の「特殊な事情」を説明しているのが、このあとに続く、「それは今日、くという事実である。」という一文です。そのはじめの五字を書き抜きます。

問4 ^④歴史と文化の遠近法の中で音楽を聴くとは、未知なる他者を知ろうとする営みである。とありますが、次はこの内容を説明したものです。空欄にあてはまる内容を、四十字以上、五十字以内で書きなさい。(6点)

	異なる文化や歴史に参入し、音楽を聴くことは、	
50		
40		
30		
20		
10		
0		

につながる営みである。

【正答】 (例) 背後にある歴史的経緯や人々の大切な記憶を大事にし、それらを育てた文化や人々を知ろうとすること (四十六字)

【解説】

「歴史と文化の遠近法で音楽を聴く」とは、音楽が生まれ育った「歴史や文化の背景」を理解し、より意味深く音楽を聴くことを表しています。「未知なる他者を知」とは、異文化(それまで知らなかった音楽文化)に対して謙虚に従ってみることで、その歴史的経緯や人々の大切な記憶に付き、敬意をもってその文化とそれを育てた人々を理解しようとすることです。該当するのは次の部分です。

「それらの背後には何らかの歴史的経緯や人々の大切な記憶がある。このことへのリスペクトを忘れたくない。『こういうものを育てた文化〓人々とは一体どのようなものなのだろう?』と謙虚に問う聴き方があってほしい。」
 この内容を、指示された文脈と字数で説明します。

問5 本文の構成や表現の仕方について述べたものとして**適切でないもの**を、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。(5点)

- ア 音楽と美術、東洋と西洋というように、複数のものを対比させながら論を進めることで、それぞれの特徴を読み手にはつきりと印象づけている。
- イ 「ダナ・アーノルドが言うように」「小沼純一こぬまじゆんいちは、次のように説明している」のように、他者の考えや説明を加え、筆者の考えを補っている。
- ウ 「ガラス瓶の中の手紙を開封すること」「空気のようなもの」などの比喻を用いながら、文章の内容を具体的に想像しやすくしている。
- エ 「もちろん」「確かに」などの語句を用いながら反対の考え方や異なる考え方を示した後、自らの論を展開することで、筆者の主張を説得力のあるものにしてている。

【正答】 ア

【解説】

本文の構成や表現の仕方について理解し、適切でない選択肢を選ぶ問題です。この文章の構成や表現の仕方について、それぞれの選択肢をみてみましょう。
 まずアですが、美術と音楽は、「作者の名前」を知ろうとすることの例示ですが、対比によって

それぞれの特徴を示してはいません。同様に、東洋と西洋も対比の構造にはなっておらず、適切でない内容です。次にイですが、筆者は「ダナ・アーノルド」、「アドルノ」、「小沼純一」の文を引用しながら論を進めており、適切な内容です。次にウですが、「ガラス瓶の中の手紙を開封すること」とは、ある音楽が、いつか誰かに受け取られ理解されることの比喩（隠喩・暗喩）です。また、「空気のような」は、日常的に存在し、それゆえ意識しないものの比喩（直喩・明喩）であり、適切な内容です。最後にエですが、「もちろん」、「確かに」以下で反論や異論などを示したあと、それに続く「にもかかわらず」、「だが初めは」以下で筆者の主張を展開しており、適切な内容です。したがって、正答はアになります。

大問 4

【出題のねらい】

古典を理解する基本的な力をみようとしたものです。難しい語句にはその左側に口語訳を付け、理解しやすいように配慮しました。源みなもとのよしえ 義家と安倍貞任あべのさだとうのやりとりを中心に、戦場においても風雅が理解されていることを伝える内容で、古典に表れたものの見方や考え方を読み取る力をみます。出典は『古今著聞集』です。

問1 たへずして とありますが、この部分を「現代仮名遣い」に直し、ひらがなで書きなさい。

(3点)

【正答】 たえずして

【解説】

「歴史的仮名遣い」についての理解を問う問題です。中学一年生から繰り返して学んでいる学習内容です。基本的には、「は行」を「わ行」に置き換え、「ぢ」を「じ」に、「づ」を「ず」に置き換えます。歴史的仮名遣いは音読を通して体感的に身につけましょう。

問2 ① 白妙しろたへになりなりにけり。 とありますが、これはどのような様子を表していますか。それを説明

した次の空欄にあてはまる内容を、十字以内で書きなさい。(3点)

武士たちの鎧 <small>よろい</small> が	<div style="border: 1px solid black; height: 100px; margin: 0 auto; position: relative;"> <div style="position: absolute; top: 50%; left: 50%; transform: translate(-50%, -50%); font-size: 2em;">-----</div> </div>
様子。	

【正答】 (例) 雪で真っ白である(八字)

【解説】

本文中の「白妙しろたへになりなりにけり。」がどのような様子であるかを、説明する問題です。物語の場面を、本文中の表現からおさえていきます。「雪はだれに降りて」とあることから、「武士たちの鎧よろい」が「白妙」になるのは、雪で覆われたためであることが読み取れます。この読み取りをもとに、指示された文脈と字数でまとめます。

なお、「白妙」は真っ白な様子を示す言葉で、教科書の次の和歌にも用いられています。

春過ぎて夏来るきたらし白たへの衣干したり天の香具山あめかぐやま(『万葉集』持統天皇)

問3 ② しばし引きかへせ。物いはん。とありますが、次は、このあとの義家と貞任が交わし合った句について説明したものです。空欄Ⅰ、Ⅱにあてはまる言葉を本文中から探し、それぞれ三字以上、五字以内で書き抜きなさい。(3点)

義家	貞任
衣の縦糸がほころびてしまうように、とうとう まったな、と呼びかけた。	歳月を経た古糸がばらばらに乱れるように、 も乱れて持ちこたえられなかった、と返事をした。
Ⅰ	Ⅱ
も攻め落とされてし	も続いた戦いで味方の軍

【正答】 Ⅰ 衣川の館(四字) Ⅱ 十二年(三字)

【解説】

義家、貞任が交わし合った句は、傍線部までの内容をふまえています。戦いの場面を確認しながら、空欄Ⅰ、Ⅱにあてはまる語句を探します。まず、戦っているのが源頼義・義家の軍と安倍貞任・宗任の軍であり、戦場は貞任等が守る「衣川の館」であることが読み取れます。したがって、義家等が攻め落としたのはこの「衣川の館」であり、Ⅰの正答となります。また、Ⅱには戦いの期間があてはまりますが、「陸奥に十二年の春秋」とあることから、「十二年」がⅡの正答となります。

問4 ③ やさしかりける事かな。は「風雅な振る舞いであったことだ」という意味ですが、これは、貞任と義家のどのような振る舞いに対して述べたものですか。最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(3点)

- ア 激しい戦いの中にあっても、句を交わし合うことで互いの気持ちを伝え合った、貞任と義家の振る舞い。
- イ 敗走する味方を逃がすために一人立ち止まった貞任と、それを見て追撃を止めて引き返した義家の振る舞い。
- ウ 敗北を認め最後の一戦を挑もうとする貞任と、勇敢な好敵手の命を惜しんで武装を解き引き返した義家の振る舞い。
- エ 激戦のさなか、敵、味方の立場の違いをこえて互いの武勇をたたえ、再戦を誓う句を交わし合った、貞任と義家の振る舞い。

【正答】 ア

【解説】

義家・貞任の「風雅な振る舞い」として適切な選択肢を選びます。それぞれの選択肢をみてみましょう。

まずアですが、「さばかりのたたかひの中」にあっても、句で「お互いの気持ちを伝え合ったこと」が風雅なのであり、適切な内容です。次にイですが、貞任が立ち止まったのは、敗走する味方を逃すためではありません。次にウですが、貞任は陥落する衣川の館から逃れるさなかであり、最後の一戦を挑もうとする様子は読み取れません。最後にエですが、交わし合った句の中では、互いの武勇を讃えておらず、また、再戦の誓う内容ではありません。したがって、正答はアになります。

【出題のねらい】

「百年後の日本に残したいもの」について、提示された三つの意見から一つを選び、自分の考えが相手に効果的に伝わるよう、自己の体験をふまえ、展開を工夫して書く力をみようとしたものです。文章をまとめるにあたり、最初の段落に選んだ意見を書くこと、文章中に意見を選んだ理由を含めることが指示されています。

【解説】

まずは「百年後の日本に残したいもの」について、提示された三つの意見の中から自分が書きたいと思う意見を選び、普段あなたが考えていたことなどをまとめます。その際に、根拠となる体験をあわせて考えます。ここで、書き手のものの見方や考え方が表れます。今回は、自分が住んでいる地域の環境や伝統行事、小・中学校での伝統に関する学習活動などを取りあげて、意欲的に書いているものが多かったようです。社会のできごとに関心を持ち、多くの体験をすることで、視野を広げることができます。

次に、文章の形態や構成を考えます。問題文の注意(2)では、段落や構成に注意して書くように指示されています。この段階で、構成メモなどをつくっておくと、文章の柱がぶれたりしません。また、見直しや推敲(ひょうご)がしやすくなります。

次の段階は記述です。自分の意見を述べるときには、自分の立場を明確にして、論理の筋道が通るように記述することが大切です。筋道を立てて書くと、自分の意見を相手に説得力をもって伝えることができます。具体的には、次の点に留意しましょう。

- ① 自分の考えや判断の根拠(理由)を明確にする。
- ② 根拠(理由)は、客観性や信頼性の高いものを選ぶ。
- ③ 最初から最後まで、自分の立場がぶれない(自分の意見が揺れない)ようにする。
- ④ 本の内容や他から聞いた言葉などを含む場合は、適切に引用する。
- ⑤ 論理の展開を工夫し、順序立ててわかりやすく説明する。

理由をあいまいにしたり、体験の内容が意見とずれていたり、途中で「どちらとも言えない」というように立場がぶれてしまうと、説得力が弱い文章となってしまうです。意見・根拠(理由)・体験が一貫していることが大切です。また、「論理の展開」については、初めに自分の意見を述べ、それを裏づける事実(体験)を述べたうえで、具体的な事実(体験)を一般化すると、自分の意見の正当性や妥当性を示すことができます。他の人の言葉などを引用するときには、「」でくくったり、出典を明示すると、信頼性が高まります。記述に際しては、対象となる事柄を順序立ててわかりやすく説明しましょう。

また、注意(4)に、「原稿用紙の正しい使い方に従って、文字、仮名遣いも正確に書くこと。」とありますが、句読点、符号、改行など、原稿用紙の使い方に従って文章を書き、書いた文章を推敲する習慣を身につけることが大切です。普段から、文章を書く際に、学習した漢字を正しく用いて丁寧に書く習慣を身につけるようにしましょう。

説得力のある文章を書くには、説明したい内容を端的に表す言葉や接続語などを適切に使えるということも大切です。論理的な文章を読んだり、客観的な説明を聞いたりする学習活動を大切にしましょう。答案の中には、話し言葉をそのまま書いたり、文末表現に常体と敬体が混じったりしているものがありました。相手や目的に応じた、適切な表現を心がけましょう。そのためには、日ごろから、読み手を意識して、わかりやすい文章にしようという心がけることが大切です。また、書き上げたあとには必ず読み返して、自分の文章を確認しましょう。